

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所
理事長 阿部 隆彦

福島ファイヤーボンズの経済波及効果について ～2014-15 年シーズンの経済波及効果は 5 億 1 千万円～

b j リーグの 2014-15 年シーズンより本県の「福島ファイヤーボンズ」が参戦することに伴い、当研究所ではファイヤーボンズが県内に及ぼす経済波及効果について試算を行いました。その結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。

なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」10月号（9月26日発行予定）に掲載し、当研究所ホームページでも公表しています。

1. 試算の概要

チームの運営費支出額及び来場者の消費支出より算出されるそれぞれの経済波及効果を合算した総合効果は総額で 5 億 10 百万円と推計される。内訳は、直接効果が 2 億 25 百万円、第 1 次波及効果が 2 億 26 百万円、第 2 次波及効果が 59 百万円。

経済波及効果（チーム運営費支出及び来場者消費支出の合計）

（単位：百万円）

	直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
チーム運営費より	59	15	8	82
来場者消費支出より	166	211	51	428
合計	225	226	59	510

<参考>

直接効果	チームの運営支出及び来場者の消費支出から算出される最終需要増加額に県内自給率を乗じて求められる、県内企業にもたらされる県内最終需要増加額。
第1次波及効果	直接効果によって生産が増加した産業において、新たに必要となる原材料等の中間需要を満たすために発生する生産誘発額。
第2次波及効果	直接効果、第1次波及効果で増加した雇用者所得のうち、消費にまわされた分により発生する生産誘発額。

2. 試算方法

今回の試算は、福島ファイヤーボンズのチーム運営にかかる支出額とホームゲーム 26 試合における来場者の消費支出額を算出し、推計を行った。

(1) チーム運営費支出額の設定

チーム運営費に関しては、経営母体である福島スポーツエンタテインメント株式会社から提供を受けた事業計画の資料をもとに設定した（チーム運営費については非公表）。

(2) 来場者の消費支出額の設定

来場者の消費活動については、観光庁「共通基準による観光客入込客統計」、国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する研究IX」などを参考に推計した。

① 来場者数

2014-15年シーズンにおける来場者数は、bjリーグ2013-14年レギュラーシーズンの1試合平均1,596人より1,600人とし、対戦相手の選手・関係者は1試合20人と設定した。これにより、ホームゲーム26試合の来場者と選手・関係者の合計は、1,620人×26試合＝42,120人となる。

来場者1,600人については、他シンクタンクで公表している実績データを参考に、98%を県内客、2%を県外客とする。さらに、1つの会場で2日間の開催となるスケジュールにより宿泊が想定されることから、県内客(宿泊0.5%、日帰り99.5%)、県外客(宿泊95%、日帰り5%)とそれぞれ設定した(図表1、なお選手・関係者は全員宿泊)。

図表1 ホームゲーム26試合における来場者内訳 (単位：人)

	県内客	県外客	選手・関係者	合計
宿 泊	204	790	520	1,514
日 帰 り	40,564	42	-	40,606
合 計	40,768	832	520	42,120

② 1人あたり消費支出額および消費支出総額

来場者の1人あたり消費支出額は、観光庁「共通基準による観光客入込客統計」の平成24年1月～平成25年6月における福島県の観光客1人あたり平均消費支出額より算出した(図表2)。これに図表1の来場者内訳の人数をそれぞれ掛け合わせ算出した来場者の消費支出総額は2億98百万円となる(図表3)。

図表2 福島県観光客の1人あたり消費支出額 (単位：円)

	宿泊	日帰り
県内	18,255	6,342
県外	27,983	10,542

観光庁：共通基準による観光客入込客統計(平成24年1月～平成25年6月平均)より算出

図表3 来場者の消費支出総額 (単位：百万円)

	宿泊	日帰り	合計
県内	4	257	261
県外	37	0	37
合計	40	258	298

本件に関する質問・お問い合わせ先
担当：木村 TEL：024-523-3171

※なお、照会のお電話につきましては午後5時までにお問い合わせいたします。